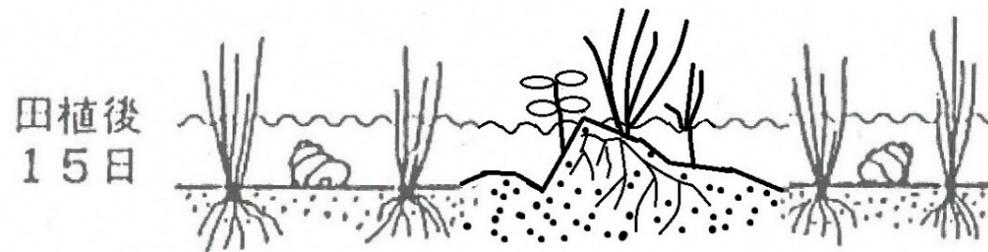
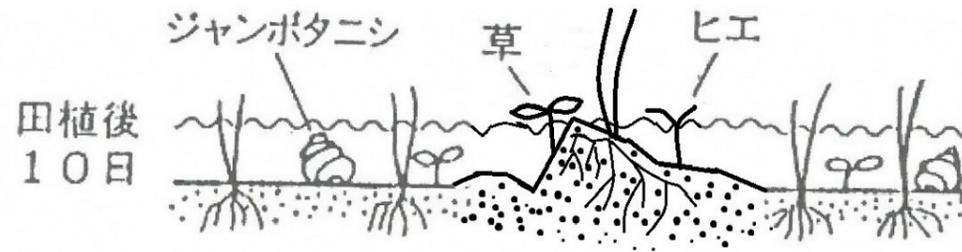


ジャンボタニシ除草

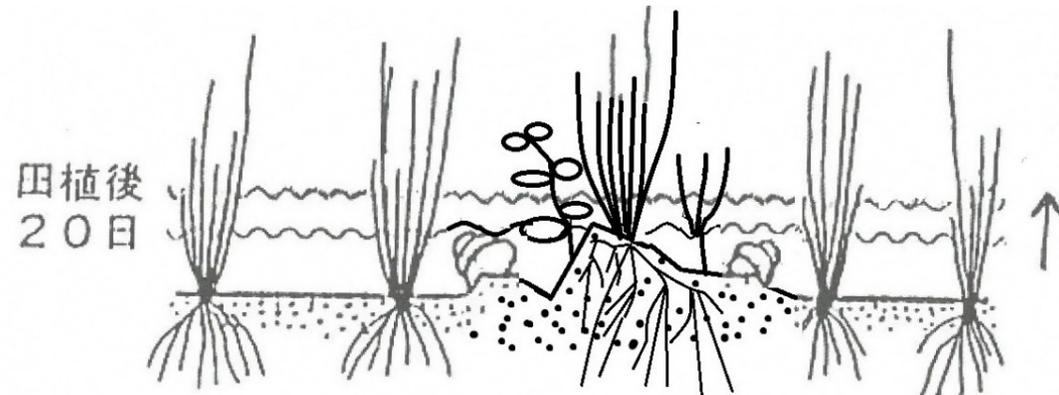
ジャンボタニシに雑草を食べさせて、除草剤を使用しない技術です。
1メートル四方に2cm以上のタニシが2〜3頭以上いれば、この除草方法が可能です。

やり方

- ① 田植え後3週間は、苗がタニシに食べられないように、極浅水(水深0〜2cm)の状態を保つ。高いところで土が水面上に出ても構いません。



- ② 田植えをしてから3週間も経つと、イネが大きくなってタニシには食べられにくくなっています。ここで、水深5〜6cmくらいの深水にします。そうすると、ジャンボタニシは草の生えているところに移動して草を食べてくれます。



○ポイント

田面の均平化に努める。

○ジャンボタニシの性質

- ① 水がないと動かない
1cmくらいの浅水であれば、活動が鈍くなり、稲苗の食害を軽減できます。
- ② 苗が5葉以上になれば、食べない
播種量を減らして育苗期間を長くにとって、大きな苗で田植えをすれば、被害を軽減できます。
- ③ 大食いで、何でも食べる
ジャンボタニシは、必ずしも稲が好きなのはなく、稲苗の周りに、野菜などがあれば、そちらの方を好んで食べます。
タケノコやジャガイモなどは、腐りにくく長持ちするので出作の田にも適しています。

○ジャンボタニシの最近の発生動向

- ジャンボタニシが減少してきています。理由として、次のようなことが考えられます。
- ① 河川や水路では、魚やエビ、カニ、カメや鳥等が、ジャンボタニシを食べています。水路の壁に産み付けられた卵を見かけることが少なくなってきました。
 - ② 田んぼでは、カラスなどの鳥がジャンボタニシを盛んに食べるようになってきました。

○ジャンボタニシ除草実施上の注意

ジャンボタニシの数が減少傾向にあります。
一旦雑草が多発生すると、翌年以降も雑草種子が多く残っている可能性があります。
ジャンボタニシ除草では、従来以上に次のようなことに注意しましょう。

- ① 田植え後の水管理
雑草、ジャンボタニシの様子、天気予報を良く見て、貝が少なかったり、晴れの日が続くような場合は注意しましょう。
田面に雑草が見え初めている場合は、すぐに雑草の葉先が水面から出ない程度の深さに水を溜める。
- ② 冬季の水田管理
冬の気温が低い場合や前年にジャンボタニシが少なかった田では、田が乾きすぎないようにしましょう。
・寒冷期に田鋤きをしない。
・冬作物が無い田では、暗渠排水の栓を閉めておく。

※ ジャンボタニシが侵入していないところに、新たに持ち込むことは絶対にしてはいけません。一度入ってしまうと、根絶することはほぼ不可能です。